

---

特定非営利活動法人 地球宇宙平和研究所

# ニューズレター

Institute for Global and Cosmic Peace

IGCP Newsletter



---

第 12 号

2007 年 4 月 24 日

---

## もくじ

### 巻頭言

- ・地球宇宙平和研究所の本格的な発展を！ 設立 10 周年にむけて ..... 中西 治..... 2

### 特集 キューバ訪問

- ・キューバ視察旅行報告..... 木村 英亮 ..... 3
- ・第 1 回キューバ学术交流に参加して ..... 浪木 明..... 6
- ・キューバ共和国訪問団会計報告 ..... 7

### 設立 5 周年記念特集

#### 記念合宿

- ・文明の衝突から文明の対話へ 宗教間対話の覚え書き ..... 岩木 秀樹 ..... 8

#### 記念新春シンポジウム

- ・地球宇宙平和研究所の意義と使命 ..... 岩木 秀樹 ..... 9
- ・茶の間と社会をつなぐ平和学  
おばちゃんを持つ使命と研究所の課題 ..... 近藤 泉..... 10
- ・理事会報告 ..... 12
- ・事務局からのお知らせ ..... 14

巻頭言

---

地球宇宙平和研究所の本格的な発展を！  
設立 10 周年にむけて

---

特定非営利活動法人 地球宇宙平和研究所理事長  
中西 治（なかにし おさむ）

2001 年 12 月 15 日に 45 人で設立された私たちの研究所は設立 5 周年を経て正会員 70 人、賛助会員 29 人、計 99 人の大きな研究所となりました。

この間に私たちの研究所は研究部会、研究会、シンポジウム、研究合宿、講演会、講義・演習などの研究・教育活動を実施し、ニュースレター、ブックレット、所報を発刊し、中国、朝鮮、キューバに代表団を派遣しました。

ウェブサイトには設立以来の活動記録が大量に蓄積されており、日ごとに豊かになっています。

私たちの研究所は基礎を固め、設立 10 周年にむけて本格的な発展の段階に入りました。

2007 年 5 月 6 日に開かれる第 6 回総会はその出発点です。

この総会で第 4 期役員（理事と監事）が任期 2 年で選任されます。

新しい理事会は 2 か月に 1 回定期的に会議を開き、研究所のすべての重要問題を審議し、決定し、実行します。

研究所の発展のために積極的に活動する会員が役員の大任を担われることを願っています。

研究所が当面している第一の問題は研究所の今後のあり方を決めることです。

有給の専任所員を擁する研究所にするのか、全員が無給で活動する研究所にするのかです。

前者の場合は財政的基盤の確立が必要です。後者の場合でも一定の仕事に対する謝礼は当然支払われます。

第二の問題は 21 世紀以降にふさわしい新しい理念と組織を有する大学院を設立することです。場所は地球上のどこでも良いと考えています。

私はこの構想を随分前からもっていましたが、それを研究所の枠内でつくるのか、枠外でつくるのかについてはまだ決めていません。

このことについても論議し、素晴らしいアイデアを出して下さい。

地球と宇宙の平和のため、すべての人間の幸せのために歴史的に評価される研究所をつくりましょう。

2007 年 4 月 20 日

## 特集 キューバ訪問

特集 キューバ訪問

### キューバ視察旅行報告

木村 英亮(きむら ひですけ)

2月26日(月)木村、浪木、浪木(香織)、片山、石橋、芝宮の6名、17時エアカナダ機で成田出発、現地時間15時10分トロント着、ホリデイ・イン泊、雪、気温0度。



2月27日(火)10時05分エアカナダ機でトロント発、13時45分ハバナ着、気温25度。空港からガイド・ホセの添乗で革命広場など見てホテル・ハバナ・リブレ着、夕刻アメリカから鈴木合流、7名となる。

革命広場はカストロの肖像画や赤旗などなくあっさりした印象。

ホテルは1958年ヒルトン・ホテルとして建築、25階建て、翌年カストロらが革命本部とした。1998年改修。

野外劇場キャバレー・トロピカーナで20時-22時30分夕食とショー鑑賞。

2月28日(水)10時20分ホテルを出て徒歩でハバナ大学訪問、午前中リク教授より大学について説明を受け、キャンパス見学。昼食後14時から16時30分ハバナ大学経済研究所でアミシア・ガルシア所長ふくめ3人の教授とトラベルボデギータ清野の通訳で懇談、富山大学の佐藤幸雄参加。旧市街見学。

大学の建物は改修期にきている。

3月1日(木)8時30分ホテル出発、郊外アラマルの有機栽培協同組合農場訪問、農場長の説明の後見学、農場手作りの昼食を御馳走になり、午後は個人農場ラス・アメリカス農場見学、通訳はトラベルボデギータの佐々木。

個人農場は0.5ヘクタール、夫婦で経営。

3月2日(金)8時ホテルをチェック・アウト、ヘミングウェイ博物館見学、高速道路でシエンフエゴスに向かい市内観光後昼食、世界遺産の古都トリニダのホテル・トリニダ・デル・マル泊。

高速道路は整備されている。軍事、観光のため。

3月3日(土)8時30分チェック・アウト、トリニダの博物館、配給所を見た後市場で買い物、サンタクララでゲバラ記念碑・廟・博物館など見学後、ビーチリゾート・バラデロに向かい、ホテル・メリア泊。

3月4日(日)11時チェックアウト、ハバナへ向かう。途中「老人と海」ゆかりの港町コーヒーマルで昼食、ハバナ・リブレにチェックイン、旧市街のレストラン・エル・アルヒーベで最後の夕食。

3月5日(月)木村、浪木、鈴木、片山の4名、9時から9時40分まで日本大使館訪問、大野正義一等書記官と会う。

鈴木はそのままアメリカ合衆国へ。他6名は11時チェックアウト、14時45分ハバナ発、18時20分トロント着、ホリデイ・イン泊、マイナス19度。

3月6日(火)13時25分トロント発、日本時間7日16時55分成田着、離陸が遅れ実際には18時ごろ到着。

日本から遠いため往復に時間をとられ、実質5日のキューバ滞在であったが、企画と通訳の面でのトラベルボデギータの尽力、見事な日本語を話す魅力的なガイド・ホセのサービスに恵まれたことによって、全員元気に期待通りの成果をあげることができた。

経済的には楽ではないであろうが、裸の子どもたちをみると栄養不足にはみえず、旅行中不安を感じたことはなかった。空と海は美しく合弁のホテルも整備されていて、観光立国の政策は成功のように思われた。ただし、高級ホテルばかりに滞在していたので、前半のハバナ大学、農場訪問以外キューバ人との接触は少なく、実態を十分知りえたとは言えない。ショーにサーカス的なものがあったこと、ゲバラ廟の永遠の火、タクシー運転手がウラジーミルであったことなどにソ連の影響を感じた。

参加者7名と少数であったのでまとまりもよく、スペイン語に堪能な実務担当者浪木の貢献も大きかった。研究所メンバーは木村、浪木の2名のみであったが、旅行中に1名増やすことができた。

2007年3月8日

## ハバナ大学、経済研究センターでの質疑要約

(2月28日14時~16時40分)

キューバ側の出席者キューバ経済研究センター長アミア・ガルシア、教授オマル・エヴェレヌ・ペレス、国際経済研究センター長ラサロ・ペニャ。われわれの自己紹介・質問、先方の自己紹介・回答およびわれわれへの質問の順でおこなった。



回答を要約すれば、次の通り。

1. 有機栽培の見通しについて - ソ連・東欧解体後、石油・農業機械などの輸入・ビートの輸出中断のなかで、大農場の解体、都市の食糧不足に対処するために生まれた。都市の食糧供給には成果を挙げたが、ビートはこれでは生産できない。
2. 医者、教師らは、海外での活動によってキューバ経済に貢献している。
3. 住民の間の格差の発生と対策 - 1989年以後外貨を得られる者は豊かになった。また賃金の上でも格差が生まれた。洗濯機・電子レンジなど電化製品のクレジットによる配給などによって平等をはかるとともにエネルギーを節約する政策をとっている。
4. 環境問題 - 経済活動が小さいので結果的に公害は少ない。外資によるホテル建設にあたっては、下水処理などに厳しい条件をつけている。森林の伐採は制限している。
5. 外資導入などに伴って腐敗は必然的などころがある。海外企業との決済は中央銀行を通すようにしている。  
キューバは、まだ世界経済に組み込まれていなかったために、ソ連・東欧のような面もあつた。
6. フィデル・カストロはすでに集団指導に移しつつあるが、将来の政治指導についてはまだわからない。
7. キューバは、単一の民族から構成されており、解体はありえない。革命前には黒人がつけない職業があつた。
8. グローバリゼーションのなかで世界経済はどのように変化していくべきなのか、ガットのメンバーであるキューバは何を分担するかなど分析中。平和は経済発展を伴う。
9. ヴェトナム、中国の経済発展には注目している。
10. 日本は中国との将来の関係についてどのように考えているのか質問あり。

特集 キューバ訪問

## 第1回キューバ学术交流に参加して

浪木 明(なみき あきら)

私がキューバを最初に知ったのは、国際関係論の授業に出てきたアリソンの「決定の本質 キューバ・ミサイル危機の分析」を通してであった。それから30年近い年月が流れ、「カリブ海の真珠」キューバを訪れることになるとは夢にも思わなかった。

今回、木村団長と共に事務局長として実務を担当し、総勢7名無事故大成功の交流となり、中西理事長にも喜んでいただくことができた。10日間に及ぶ長旅の中で参加者が機内、車内、ホテル、食事、ハバナ大学等で、互いの交流を深め全員が満足したキューバ訪問であった。今後の文化学术交流、研究所の拡大・発展を考える上でも示唆に富んでいた。



キューバの公用語であるスペイン語は、世界の23に及ぶ国や地域で3億人を優に越える人々に話されている国際語である。出発前にスペイン語入門講座を担当し、訪問団名簿、研究所紹介のスペイン語訳に携わらせていただいた。キューバ滞在中に積極的にスペイン語を使い、最終日にはタクシー運転手(数学の教員を兼業している)と会話を楽しむこともできた。

個人的な印象を述べると、その発展途上にある街や人々の雰囲気は、過去に訪れた中国とケニアに部分的に似た感じがした。また、出発前に抱いていた明るく奔放な「ラテン的な」イメージは、実際にはずっと落ち着いたものだった。治安もよく、観光・サービスによる外貨獲得は成功しているようだが、そこから生じる国民経済格差の問題は深刻度を増している。

帰国後、テレビでフィデル・カストロ国家評議会議長のインタビュー特集「革命と人生を語る」を見たが、1959年のキューバ革命以降、私の人生と同じ48年間、世界の激動にもかかわらず、社会主義政権を維持できた理由が少し分かってきた。あらゆる政治体制で国民が満足するものを構築することは不可能だとは思いますが、人間の善性を信じ、改革を続け、「生きる」という強固な意志があれば、その完成度を高め維持・発展させることが可能であることを教えられた。特にキューバの医療・教育・農業近代化・海外援助活動はもっと事実を日本に広く知ってもらふ必要があると痛感した。



カストロ議長の早期回復を心より祈念し、今回は是非、ハバナにつぐ第2の都市サンティアゴ・デ・クーバを訪れ、スペイン語に更に磨きをかけ、第2回キューバ学術文化交流を実現していきたい。

特集 キューバ訪問

## キューバ共和国訪問団会計報告

(2007年2月26日～3月7日)

### 収入

	参加者から研究所への払い込み(7人×10,000円)	70,000円
	合計	70,000円

### 支出

2/21	お土産代(ボールペン等)	5,028円
2/22	お土産代(書籍5冊)	13,335円
2/26	チップ代(10カナダドル)	1,150円
2/27	チップ代(15ペソ)	2,250円
2/28-3/5	チップ代(122カナダドル)	14,030円
3/5	タクシー代(大使館からホテル14ペソ)	2,100円
3/6	チップ代(10カナダドル)	1,150円
	合計	39,043円

### 収支残高

30,957円

以上



## 設立5周年記念特集

設立5周年記念特集: 記念合宿(2006年12月16・17日、日光)

### 文明の衝突から文明の対話へ 宗教間対話の覚え書き

岩木 秀樹(いわき ひでき)

現在の戦争は、「文明の衝突」、「宗教戦争」と言われることが多い。しかし本当に宗教の相違が戦争に直接結びつくのか。また過去の歴史をひもとくと、多宗教の共存がなされていた。文明の衝突から文明の対話のために、今こそ宗教間対話が望まれるのである。

宗教間対話において、まず宗教における寛容の問題を考えなくてはならない。自己の宗教の思考体系から身を離し、他者の宗教の立脚点に立ってみる。その時、自己の立場からでは理解できない事柄が、了解されてくるのである。それぞれの宗教が他者の立場に身をおく時、宗教間の「共通性」と「相違性」が確認されてくるであろう。このような中から宗教的寛容が生起するのである。

宗教間対話とは現実的には非常に難しい側面もあろうが、次のような意義もあるのである。宗教が絡む戦争の抑止や早期終結など諸宗教が協力して様々な貢献ができる。他宗教を知ること、自宗教を他宗教の視点を通してさらに深く理解できる。宗教には時間とともに自己硬直化する傾向があるが、他宗教との対話を通して硬直しがちな自宗教にダイナミズムや生命力を与えることができる。多種多様な宗教が対話することで、人類はこれまでになかった新時代の新たな思想・哲学を生み出すことになるかもしれない。

キリスト教徒のマザー・テレサは各宗教の共通規範を「殺すなかれ」として、「カトリックであろうと仏教徒であろうと、ヒンドゥー教徒であろうと、イスラム教徒であろうと、みな、心の中で、殺してはいけないということを知っています」と主張した。

現在のイラク情勢において、ブッシュの信仰とフセインの信仰は互いに敵対しているが、それぞれが自己を閉じていることにおいて、同じ構造をしている。これに対してマザー・テレサの信仰は、開かれた構造を有している。二人の信仰はマザー・テレサの信仰とこそ対立しているのである。

宗教教団においても、またいかなる組織においても、開かれた構造は重要であろう。会社や学校では、人々を組織のなかに抱え込み、外の世界はなるべく見せないようにして、画一の意味を与え、内的成長を阻害する。しかし問題が起こるとリストラや退学という形で外に放り出すといった、「抱え込みか追放か」といった二分法は重大な問題である。内と外の風通しをよくし、ひとりひとりの内的成長を促すようなネットワーク型への転換が求められてい



るのである。

今後、文明の衝突を転換するためにも、宗教間の相違は認めた上で、共通する規範をよりどころにして、地球という大きな共同体に私たちは属しているのだという意識を持ちながら、文明の対話をする必要がある。

#### 参考文献

『東洋学術研究』第 43 巻第 2 号、東洋哲学研究所、2004 年。

上田紀行『生きる意味』岩波書店、2005 年。

星川啓慈『対話する宗教 - 戦争から平和へ』大正大学出版会、2006 年。

#### 設立 5 周年記念特集

記念新春シンポジウム「地球宇宙平和研究所の歩みと課題」(2007 年 1 月 21 日、神奈川県民センター711 号室)

---

## 地球宇宙平和研究所の意義と使命

---

岩木 秀樹(いわき ひでき)

地球宇宙平和研究所は 2001 年 12 月 15 日に設立総会を行い、2002 年 5 月 2 日に特定非営利活動法人 (NPO) として発足した。

これまでに多くの会員のご支援により様々な事業を行うことができた。講演会は 10 数回、研究会は 36 回も行い、ニュースレターは 12 号まで発行し、昨年度から所報を発刊し、平和研究に寄与することができた。また中国、朝鮮、キューバを訪問し、有意義な文化学術交流をしてきた。現在、会員数は 99 名で、男女比はほぼ 6:4 である。学生、研究者、政治家、会社員、主婦や定年退職者等、多彩な構成である。

今後は、様々な情報のインターネット配信や、寄付金が控除になる認定 NPO への申請、叢書発刊などを目指していきたい。

私が考える研究所の意義としては次のようなものが挙げられる。NPO としての平和研究所は日本においては稀有であり、平和研究論文集の発行をしている NPO は寡聞にして私は知らない。また宇宙的、地球的観点からの視点は非常にユニークだろう。さらにインターネットを利用したネットワーク型の大学院大学構想のもと、卒業後また定年後の学びの場、情報交換のフォーラムをつくることは大いに意味がある。

現在、国家機能の肥大化とともに、その対局として極端な個人主義が進んでいる。また学問においても、国家主義的公意識を強化しようとする動きとともに、個人を単なる利己的次元で捉えようとする傾向がある。このような流れに対抗するため、お上と個人の間には存在す

る NPO は、公共性という観点から非常に重要なものと見られている。公私の乖離をつなぎ止め、中間集団を強化していく使命を NPO は持っている。お上や官という意味での公でもなく、利益のみを追求する市場の論理でもない新しい公共性を NPO を通じて創っていききたい。

地球宇宙平和研究所は新しい公共性の担い手であり、また地球宇宙平和哲学も志向している。地球宇宙平和哲学とは宇宙的意識と、多くの哲学に共通した価値観を基調とする。

宇宙的意識とは私たちがこの広い宇宙に共に存在するという意識であり、宮沢賢治の「銀河意識」やダライ・ラマが言った地球上に住む人類が持つべき「宇宙的責任」とも通底するものである。

様々な哲学の共通的価値観とは、「殺すなかれ」「盗むなかれ」であろう。「殺すなかれ」とは無駄な殺生はしないということであり、これは人間や動植物はおろか大地や無機物にまで及ぶかもしれない。「盗むなかれ」とは先進国による搾取などの南北問題や、未来世代の資源を奪う環境問題をも含んでいる。

さらに「やられてもやり返さない思想」を、これらの価値観に付け加えたい。言うはやすし、行うは難しであるが、地球上の暴力の連鎖を断ち切るために非常に重要な考えであろう。

地球宇宙平和研究所に集う私たちは、新しい公共性を担い、大いなる哲学を作り出していきたい。

#### 設立5周年記念特集

記念新春シンポジウム「地球宇宙平和研究所の歩みと課題」(2007年1月21日、神奈川県民センター711号室)

---

## 茶の間と社会をつなぐ平和学 おばちゃんの持つ使命と研究所の課題

---

近藤 泉(こんどう いずみ)

### 1. 「茶の間」と社会をつなぐおばちゃん

家族、友人達が集う気の置けない茶の間は、人と社会との関係を一方通行に終わらせず、個人の悩みや思いを人類の平和にとってかけがえのないキーワードへと意識改革できる力を持っている。

茶の間での会話を次のようにとらえてみる。

社会の中の人間 / 客観から主観へ

ニュース・情報の交換(客観) 理解・疑問を暖め共に考える(主観)。

人間の中の社会 / 主観から客観へ

社会の中で感じ悩んだ出来事を説明(主観) 互いに分析する(客観)。

今地域では孤立型住民が増加し、家庭の形態も多様化している。血の通った人間関係と会話のある茶の間の力が、切実にして自然な平和への願いとなり「平和学」を創造し育てていくものと思う。茶の間のリーダー「おばちゃん」の持つ使命は大きい。

## 2. 社会を科学的に分析する困難さへのおばちゃんの挑戦

【公立学校入学式、卒業式の問題を例として】

昭和40年代頃から一部の学校で行われて来た「フロアー方式」は、体育館フロアーに演壇を設け中央の児童席を保護者・来賓・教職員が囲む座席配置。国旗は竿に差しフロアーに立てる。

現在、文科省・教育委員会の通達に則り公立学校では入・卒業式での国旗の壇上正面への掲揚・国歌斉唱が義務付けられている。その真意がスムーズな学校経営ための組合対策とされ、「フロアー方式」が国旗への拝礼をしにくくする組合の「活動方針」だとされる。これらの資料を確認し科学的に分析することは困難である。しかし、物事を多面的重層的に知る努力と、周囲への呼びかけは出来る。

【学校教育の場での平和教育を例として】

学校教育の場での平和教育は、地球的な視野での理解、自分が地球のために何が出来るかを意識した教育という形で、様々な教科で行うようになっている。しかし、「平和」について継続的専門的に学ぶ場所はない。「子どもの権利条約」や「憲法第九条」の学習など「平和学」として恒常的に学校教育の場で学ばれるべき。

【まとめ】

管理側と組合の対立構造に翻弄されない子ども達のための教育の現場であるか否か、平和教育に行政(経済)的都合での手抜きがないかを監視し、様々なアプローチの方法を提案出来る時代(学校評価制度や学校運営連絡会制度の進展)。地域社会に根ざし信頼の輪を広げているおばちゃんの出番。

## 3. 研究所への女性参加の推進を

当研究所は女性加入率が低い。学究学术界・学生はもとより、更に子育て世代、戦争体験者、社会で活躍する女性の参加拡大を図っていきたい。また、広汎な女性に入り易いウェブの工夫や身近な平和についての話題の提供等を提案したい。

---

## 理事会報告

---

### 第3期理事会第5回会議報告（2007年1月21日）

2007年1月21日（日）午後3時から4時45分まで、かながわ県民センター711号室で、第3期理事会第5回会議が開催され、書面表決人やオブザーバーを含めて、15名が参加しました。

まず2006年12月31日現在の2006年度事業報告と2006年度仮決算が報告されました。そこでは主に研究所の財政問題が中心に議論され、年度末までに見込まれる支出をどうするか、また今後の研究所の経済収支を根本的に論議する必要があるなどの意見が出ました。このような収支バランスの安定化のために、様々な場面でも会費が支払える会費徴収システムの強化、大きな支出となっている所報発行費用の軽減化、所報の買い取りや売り上げの増加、研究所を支援してもらう方を広く募ることなどが議論され、2006年度事業報告と2006年度仮決算が承認されました。

次に2007年度事業計画が報告され、研究・教育事業、情報提供活動、文化学术交流事業ともに多彩な活動をすることが説明されました。その中で、総会記念講演会が5月6日に開催されること、教育事業として講義または演習を月一回程度行うこと、所報やブックレットの発行を継続的に行うこと、講演会や研究会等の開催場所の多様化、文化学术交流としてロシアを検討することなどが議論され、2007年度事業計画が承認されました。

新役員選出方法について議論され、役員選出委員会をつくり、そこで選出方法を含めて話し合われることになり、委員長に中西治理事長が就くことになりました。

寄付金が控除対象になる認定NPOへの申請については監事を中心として今後検討していくことになりました。

### 第3期理事会第6回会議報告（2007年4月）

第3期理事会第6回会議が、2007年4月22日（日）午後4時から午後6時まで、かながわ県民活動サポートセンター603号室において、理事10名（書面表決者含む）および監事1名が出席されて開催されました。

まず2006年度事業報告案が説明されました。新たな事業として講義・演習を9月から12月までほぼ毎週開催し、さらに所報創刊号を発刊し、会員のみならず日本国内および諸外国

の研究者や研究機関に送付したことが報告されました。また5周年記念の研究合宿やシンポジウムを行うことができ、これまでの研究所の総括を行うとともに、今後の展望を議論したことが報告されました。これらの新規事業とともに、研究教育事業としては講演会や研究会の開催、情報提供活動としてはニュースレターの発行やホームページによる情報提供等を継続的に行い、また文化学術交流事業として2007年2月から3月にかけて、初めてキューバ共和国を訪問し、ハバナ大学等で交流を行い、有意義な議論がされたことが報告され、2006年度事業報告案が承認されました。

次に2006年度収支報告案が説明され、収支のバランスをはかること、会費徴収は80%を目指すこと、会費未納者には会費入金をお願いをすることなどを今後検討することになった。監事2名による監査も終了し、諸帳簿および証拠書類が間違いないことを確認いただいたことが報告され、2006年度収支報告案が承認されました。

続いて、2007年度事業計画案が報告されました。研究教育活動においては、前年度より始まった講義・演習の教育事業を継続して行うとともに、講演会、シンポジウム、研究会、研究合宿等を通じて、知の探求と発信をしていくことが報告されました。情報提供活動においては、所報第2号を発刊し、内外の平和研究に一石を投じるとともに、ブックレットやニュースレターの発行も行い、多様な情報提供を行っていくこと。ホームページやメーリングリストを媒介に、多彩な情報を多くの人々に与えていくこと。また研究教育活動をインターネットやCDなどの媒体を通じて、情報を配信するとともにe-ラーニングの準備もしていくことが報告された。文化学術交流においては、中国・朝鮮・ロシアの訪問とキューバ・中南米の訪問を予定しており、学術交流もさらに充実させていくことが報告された。

この中で、所報の発行について収支のバランスを取るため、印刷費用を抑える努力をし、また特集号を組むなどして販売促進にも努めることになった。文化学術交流について、旅行費用の中に研究所に支払う参加費を明らかにして、内訳も土産代・チップ代・企画立案料等と明記することになった。また学生などを対象にした「平和の旅」など様々な形態の旅行も検討することになった。今後は理事会を定期的に行い、機能の充実をはかることになり、2007年度事業計画案が承認されました。

最後に、2007年度収支予算案が報告され、年会費の徴収目標を現実にあった数値に下方修正し、所報の印刷代も今後削減努力をすることにより予算を削減した。以上のような議論を踏まえ、2007年度収支予算案が承認されました。

## 事務局からのお知らせ

---

### 今後の予定

#### 総会記念講演会および理事会、総会のお知らせ

下記の通り、総会記念講演会等を開催いたします。奮ってご参加ください。

- ・第3期理事会第7回会議

2007年5月6日(日) 15時~17時 かながわ県民センター703号室

- ・総会記念講演会

日時: 2007年5月6日(日) 17時~19時

場所: かながわ県民センター 711号室 (JR横浜駅西口徒歩5分)

講師: 油井大三郎氏 (東京女子大学教授)

テーマ: 「日米関係と戦争の記憶」

参加費: 800円

- ・第6回総会 同日 19時~19時50分 かながわ県民センター711号室

- ・第4期理事会第1回会議 (新理事会) 同日 19時50分~20時 同センター711号室

終了後、懇親会を行います。

- ・懇親会

時間: 20時~21時30分

場所: 津多屋 Tel: 045-290-1682

会費: 3,000円程度

#### 理事会開催日程 (予定) のお知らせ

2007年7月8日、9月9日、11月11日

2008年1月13日、3月9日



## 認定 NPO 法人申請の準備

認定 NPO 法人制度が 2006 年度に大幅に改正されました。寄付金等収入金額のなかに会員の会費が含まれるようになりました。この機会に地球宇宙平和研究所では認定 NPO 法人申請を準備しています。

認定 NPO 法人となると税の支援措置が受けられ、法人へ寄付をしていただいた方は、その寄付金の額が所得金額から控除されます。

認定 NPO 法人となるためには、総収入額に対する寄付金等収入金額の割合が 5 分の 1 以上にならなければなりませんので、恐縮ではありますが皆さんからのご支援をお願い申し上げます。

## 地球宇宙平和研究所入会の案内

研究所の趣旨に賛同し、入会される方を広く募集いたしております。会員の方もご友人、ご家族等に紹介していただければ幸甚です。入会希望の方は事務局まで連絡下さい。

- |                 |             |             |
|-----------------|-------------|-------------|
| ・正会員（総会での議決権あり） | 入会金 5,000 円 | 年会費 5,000 円 |
| ・賛助会員           | 入会金 2,000 円 | 年会費 3,000 円 |

## 振り込み先

- ・銀行振り込み 三井住友銀行三鷹支店（普）1700950  
名義人：特定非営利活動法人地球宇宙平和研究所
- ・郵便振り込み 郵便振替口座番号 00120-7-16913  
口座名称：特定非営利活動法人地球宇宙平和研究所

## 事務局

事務局への連絡は以下へお願いします。

岩木秀樹 メール: [hiiwaki@f4.dion.ne.jp](mailto:hiiwaki@f4.dion.ne.jp)  
電話・ファックス: 0426-54-8505  
住所: 193-0801 八王子市川口町 1607-1 サウスポート 203 号



特定非営利活動法人 地球宇宙平和研究所  
ニュースレター 第12号

発行人 中西 治

発行所 特定非営利活動法人 地球宇宙平和研究所  
〒235-0045

神奈川県横浜市磯子区洋光台 1-9-3

Web: <http://www.igcpeace.org/>

E-mail: [info@igcpeace.org](mailto:info@igcpeace.org)

発行日 2007年4月24日

編集人 遠藤 美純

頒 価 100円